



▲HPはこちら

エンジョイサマースクール

〔選挙って何だろう?〕視察 (8/6)

議会運営委員会の活動として、夏休みに選挙管理委員会が主催したエンジョイサマースクールの講座を見学しました。

総務省主権者教育アドバイザーの講師による小学生を対象とした主権者教育の簡単な座学や本物の投票箱を使っての模擬投票も行われていました。

私たち議会も、こうした選挙管理委員会の活動にしっかりと連携していく必要性を感じました。



VOICE

～リレーで綴る村民の声～



東海村に住んで4年が経ちました。

昨年子どもが生まれ、家の近くの舟石川近隣公園をよく利用します。今年は緑の木公園も完成し、ますます子どもの遊び場が増えた有難い限りです。もう少し大きくなったら、阿漕ヶ浦公園の滑り台や総合福祉センター前の前にあるアスレチックで遊ばせたいなあと野望がもくもくしています。

おち議員には、子育て世代がもっと働きやすくなるよう保育園や学童の待機児童ゼロをめざして、頑張ってほしいです。

中山 裕加里さん（大山台在住）



編集後記

9月初旬、スーパーなどの店頭からお米が消え、令和の米騒動というべきニュースとなった。

背景としては、昨年の猛暑による米の不作、外国人旅行客の増、南海トラフの臨時情報や台風に備えた個人の備蓄、さらに米不足の報道を受けた買い占めなど、いくつかの要因が重なったとされている。

幸いにも、我が家では四国の実家からお米をずっと取り寄せており何ら心配は無かったものの、改めてお米の大切さと親の有難さを実感した。

30年ほど前、記録的な冷夏に起因する米不足によって、会社の寮でもタイ米を食べた記憶が蘇る。やっぱりお米は、大切な主食である。



第67号

発行人：おち辰哉後援会

日立市幸町2-13-6
(日立製作所労働組合 日立国分支部内)
TEL 0294(26)0183
FAX 0294(26)0186

日頃のご支援に感謝申し上げます。

長くて暑かった夏がようやく終わり、日を追うごとに秋の気配を感じるようになりました。

一方、国政では秋の決戦の時が着実に近づきつつあります。

これまで「現場主義」を貫き、地域に根差した地道な活動を続けてきた「浅野さとし」衆議院議員。東海村を含む茨城5区の代議士として、再び国政の場で精力的に活動していただくためにも、最大限の支援を行います。

越智辰哉



NEWS

～ 東海村行政の身近なニュースをお伝えします～



「とうかい育ち」の農作物を食べよう

東海村では、村内の新鮮な農作物をたくさんの方々に知っていただき、そして消費していただるために「とうかい育ち」シールを貼付して販売しています。

この「とうかい育ち」シールは、小松菜やホウレンソウなどの生鮮野菜については、出荷前日または当日朝に収穫された農作物に貼付されており、東海ファーマーズマーケット「にじのなか」、イオン東海店、カスミ、ヨークベニマルなどで購入できます。

村内で採れた農作物は、収穫されてから陳列棚に並ぶまでの輸送時間が短いので、新鮮さが売りです。

新鮮な東海村産の農作物をしっかりと食べて、地産地消と健康増進を図りましょう。





グルービー樅の木公園 駐車場不足の解消へ

グルービー樅の木公園は、本年4月29日の開園以降、多くの利用者で賑わっており、本村の新たな名所となりつつあります。

一方で、公園の駐車場が圧倒的に不足していることから、周辺道路への路上駐車や近隣の商業施設への迷惑駐車などが大きな問題となっています。

そこで、公園の西側に隣接する日本原子力研究開発機構の土地を借用して、新たに70台分の駐車場を増設する補正予算（6,988万円）を可決しました。

近隣住民からも、当初計画における見通しの甘さが指摘されており、問題解決に向けた早急な対応が必要です。



村発足70周年 住民による企画公募事業を展開



東海村は、令和7年3月31日に村発足70周年を迎えます。これを機に、住民の一体感や東海村への愛着の醸成などを目的として、住民が主体的に企画・立案し実施するイベントに対して村が補助（上限100万円）しています。

これまで、阿漕ヶ浦公園において水鉄砲を使ったサバイバルゲーム「水陣」や、グルービー樅の木公園において「ダンスフェス」が開催されるなど、ユニークなイベントが開催されました。

この企画公募事業は、令和6年度から令和8年度までの3ヶ年で実施される予定であり、今後は行政だけでなく住民主催のイベントにもご注目ください。

令和5年度一般会計

決算審査を終えて

今議会では、令和5年度の決算について集中審査しました。決算とは、村民の皆さまからいただいた税金を村がどのように使ったのか？ということを細かくチェックするものです。

決算を見していくと、省エネ家電の導入促進や外出時のタクシー利用料の助成など、新規事業でありながら申請件数が想定を下回り、予算が完全消化されずに終わった事業が散見されました。

今後は、住民への周知を改善したり、補助要綱を見直して使い勝手の良い制度にするなど事業の再考を求めました。

また、スイミングプラザの利用が好調であり、予算を上回る利用料収入がありました。しかし、電気料金など施設の運営コストが増大している現状を踏まえ、受益者負担の原則に基づき利用料金の適正化に向けた検討を求めました。



「省エネ家電導入促進事業」

省エネ性能4つ星以上のエアコン、冷蔵庫を購入する際に費用の一部を補助（上限3万円）する新規事業
→ 予算額700万円に対して決算額438万円



「有難い制度だけど4つ星以上の製品なんて高くて買えない」という住民の声が多数



「スイミングプラザ使用料」

夏季における東海スイミングプラザ（村民プール）の利用料金収入
→ 予算404万円に対して決算額523万円



子ども100円、中学生以上200円という現状の料金設定は、近隣と比較しても妥当なのでしょうか？



東海第二 安全対策工事を2年延期

日本原子力発電(株)が進めている安全対策工事の完了時期を2年3ヵ月延期し、2026年12月になる見通しが示されました。

今回の工期延長は、事業者の経営にとって当然マイナス要素であり、また国内の安定的な電力供給の観点でもマイナスの要素となります。

しかし、日程ありきではなく、安全性や品質をしっかりと確保しながら工事を着実に進める方針が示されたことは、地元住民にとってはプラスであると考えます。